

世界が進むチカラになる。



経済調査

# 米国景気概況(2024年11月)

2024年11月5日

調査部 主任研究員

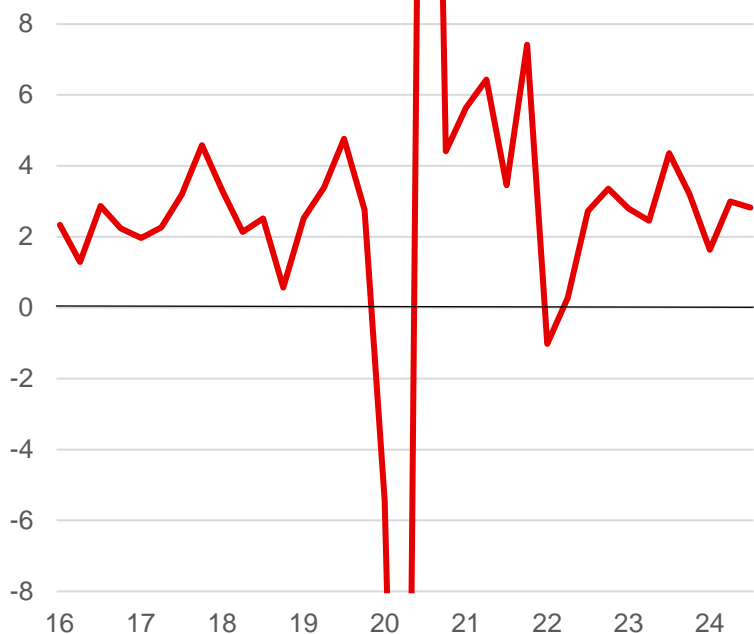
細尾 忠生

# 景気は底堅い

米国経済は底堅く推移している。7-9月期の実質GDP成長率(速報値)は前期比年率2.8%と、10期連続でプラス成長となった。前期に成長率を1.1%ポイント押し上げた在庫投資がマイナス寄与に転じたものの、個人消費、設備投資などの最終需要の伸びが拡大した。一方、企業の景況感を示すISM景況指数は、製造業で判断の目安となる50の水準を下回った。先行き、個人消費がこれまで好調に推移した反動などで弱含むとみられるが、全体として景気は底堅く推移する見通しである。

## 実質GDP

(前期比年率、%)

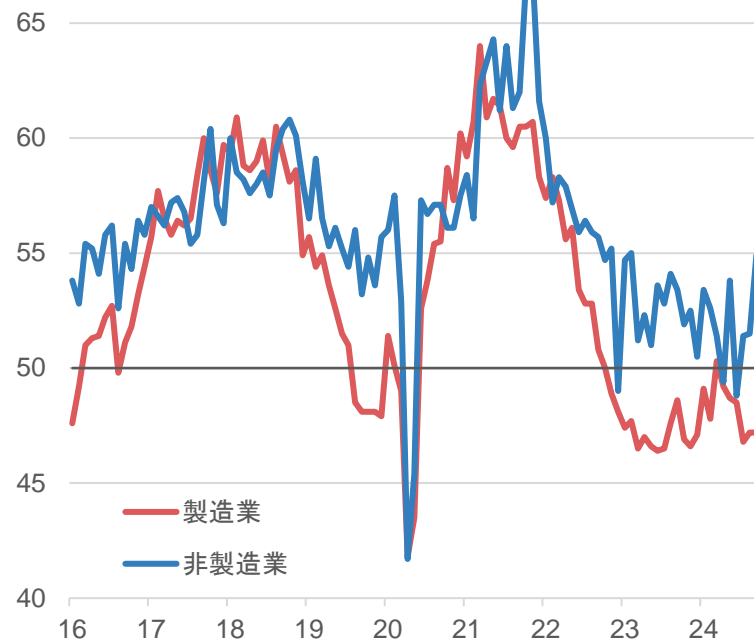


(年、四半期)

(出所)米商務省

## ISM景況指数

(%)



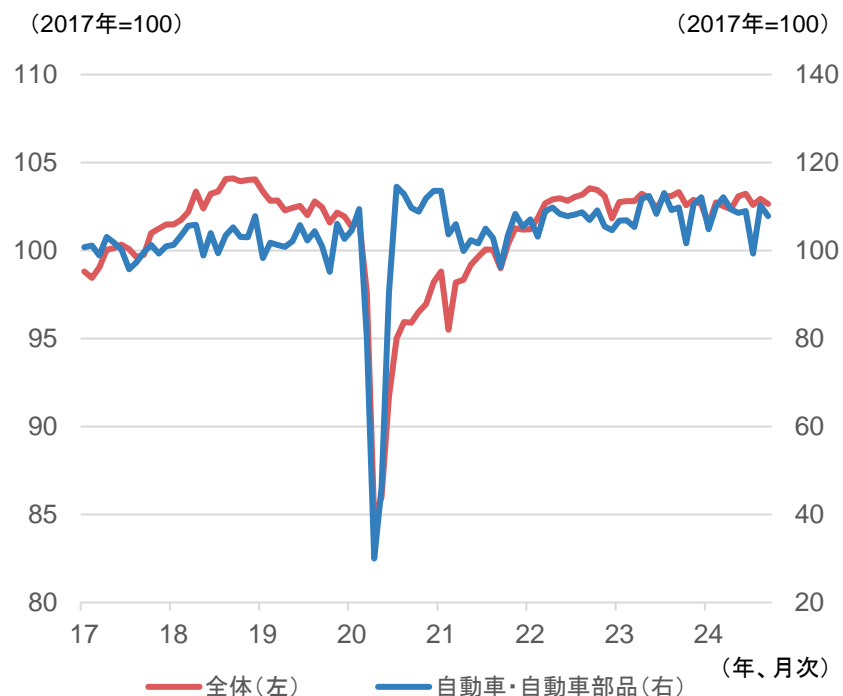
(年、月次)

(出所)米供給管理協会

# 生産減、雇用は微増、失業率横ばい

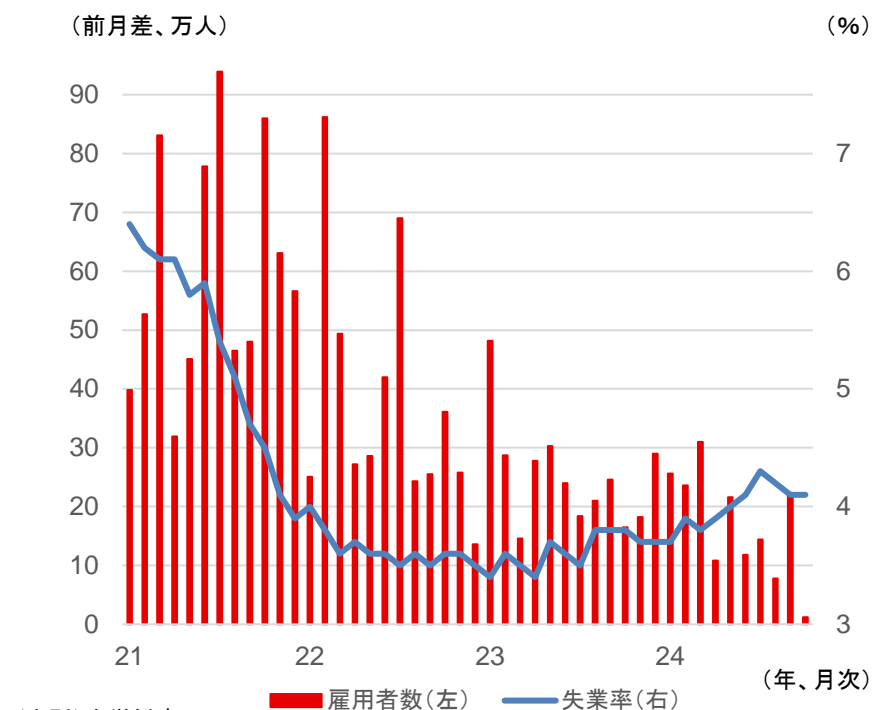
- 9月の鉱工業生産は前月比0.3%減と2ヶ月ぶりに減少した。ハリケーンや航空機メーカーのストの影響に加え、自動車・部品が同2.2%減少し全体を押し下げた。設備投資動向を示す9月のコア資本財出荷は同0.3%減と3ヶ月連続で減少した。
- 10月の非農業部門雇用者数は前月差1.2万人増と、大型ハリケーンや大企業でのストライキの影響などによりコロナ禍の2020年12月以来の低い伸びにとどまった。派遣労働者などが含まれる専門サービス(同4.7万人減)や製造業(同4.6万人減)の落ち込みが大きかった。一方、失業率は4.1%と横ばいであった。

## 鉱工業生産



(出所)米FRB

## 雇用



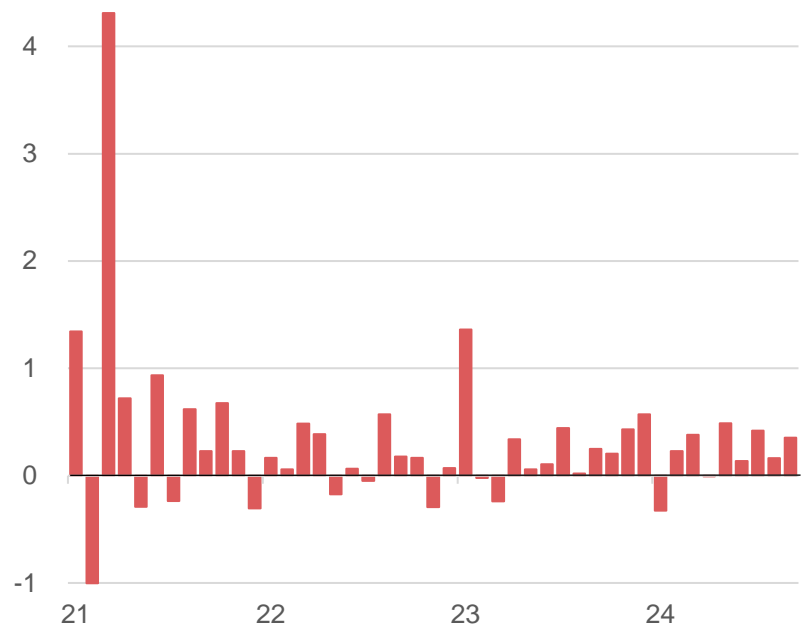
(出所)米労働省

# 消費増加、物価上昇率は高水準ながら鈍化傾向

- 9月の実質個人消費は前月比0.4%増と8ヶ月連続で増加した。内訳をみると、自動車などの耐久財消費が同0.2%増、非耐久財消費が同0.8%増、外食、宿泊などのサービス消費が同0.2%増加した。
- 消費者物価(エネルギーと食料品を除くコアベース)上昇率は、9月は前年比3.3%と小幅ながら1年半ぶりに加速した。FRBが重視する個人消費支出物価指数(同)上昇率は、9月は同2.7%と3ヶ月連続で同じ伸びとなった。いずれも水準は依然として高いものの傾向としては鈍化傾向が続いている。

## 実質個人消費

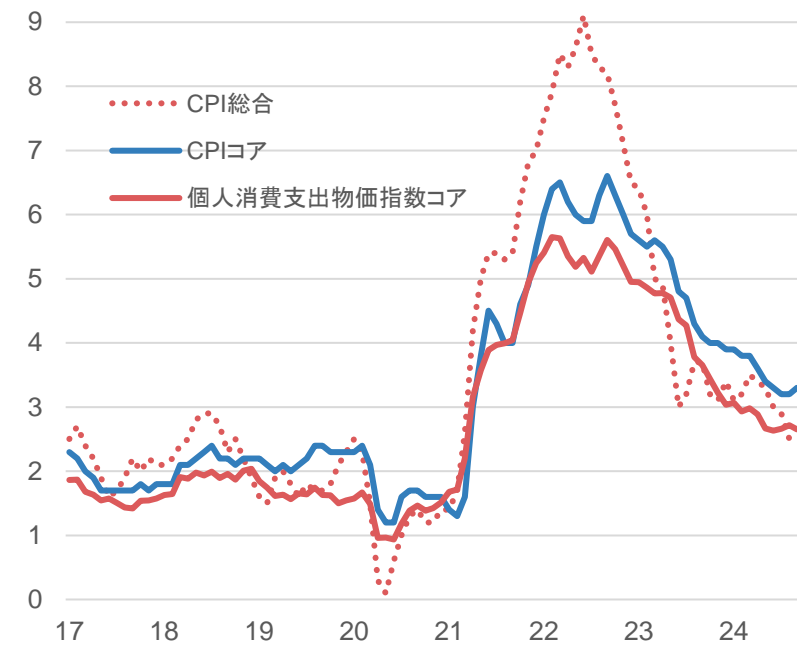
(前月比、%)



(出所)米商務省

## 物価

(前年比、%)

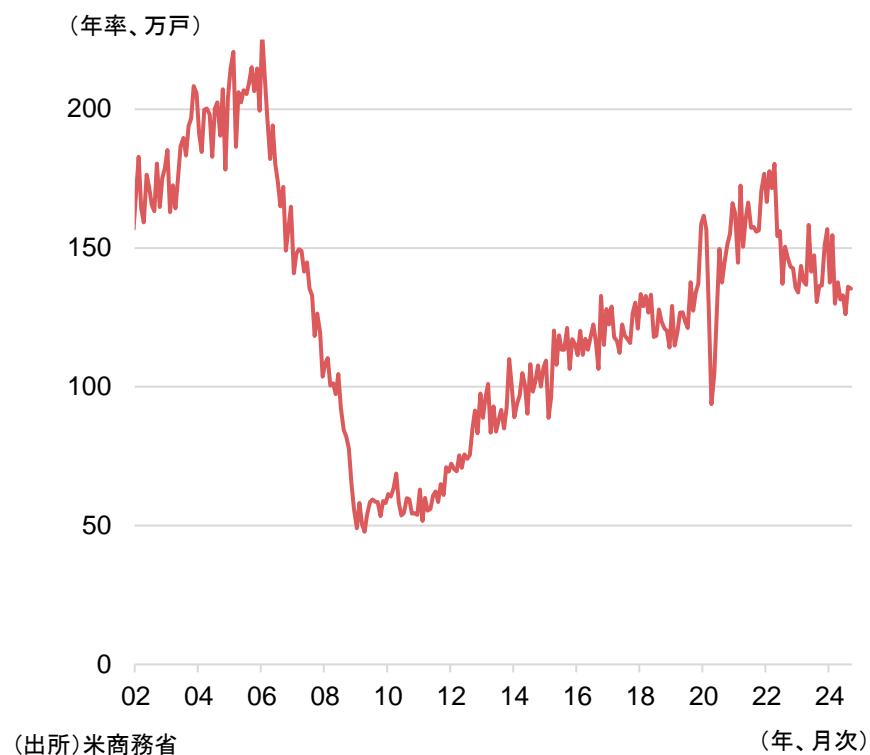


(出所)米労働省、商務省

## 住宅：着工は小幅減、価格は上昇

- 9月の住宅着工件数は年率135万戸と、ハリケーンの影響などもあり前月から小幅減少した。住宅価格やローン金利が高止まりしている影響により、住宅着工の低迷が続いている。
- 8月の住宅価格指数は前年比4.2%上昇した。上昇は15ヶ月連続となったが上昇率は5ヶ月連続で鈍化した。米国では住宅の供給不足が根強く、住宅価格は今後も上昇が続く見込みである。

### 住宅着工件数



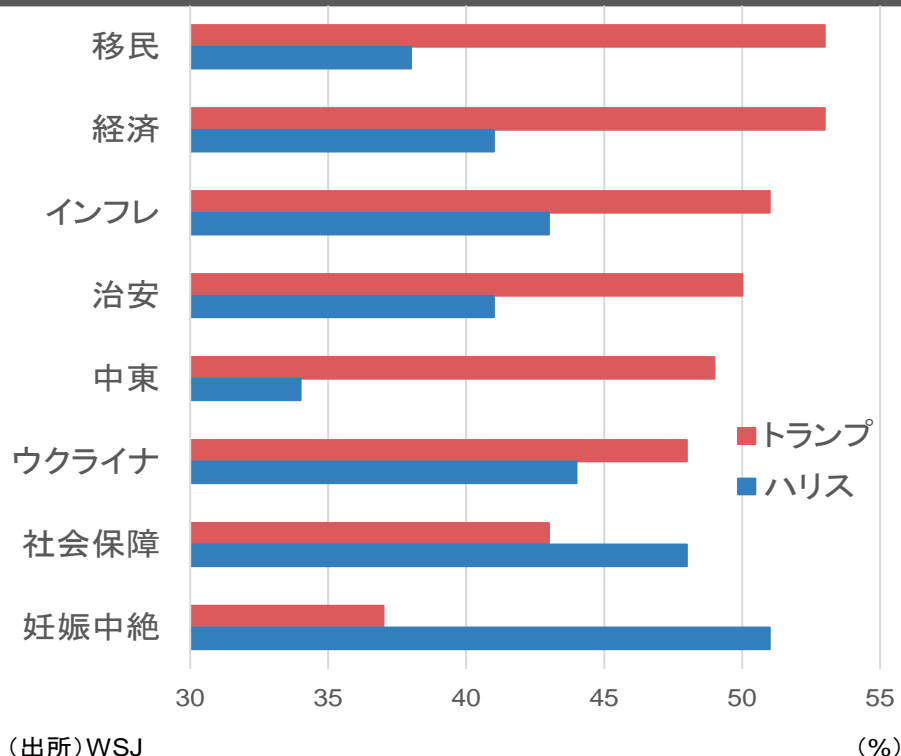
### S&Pコアロジック・ケース・シラー住宅価格指数



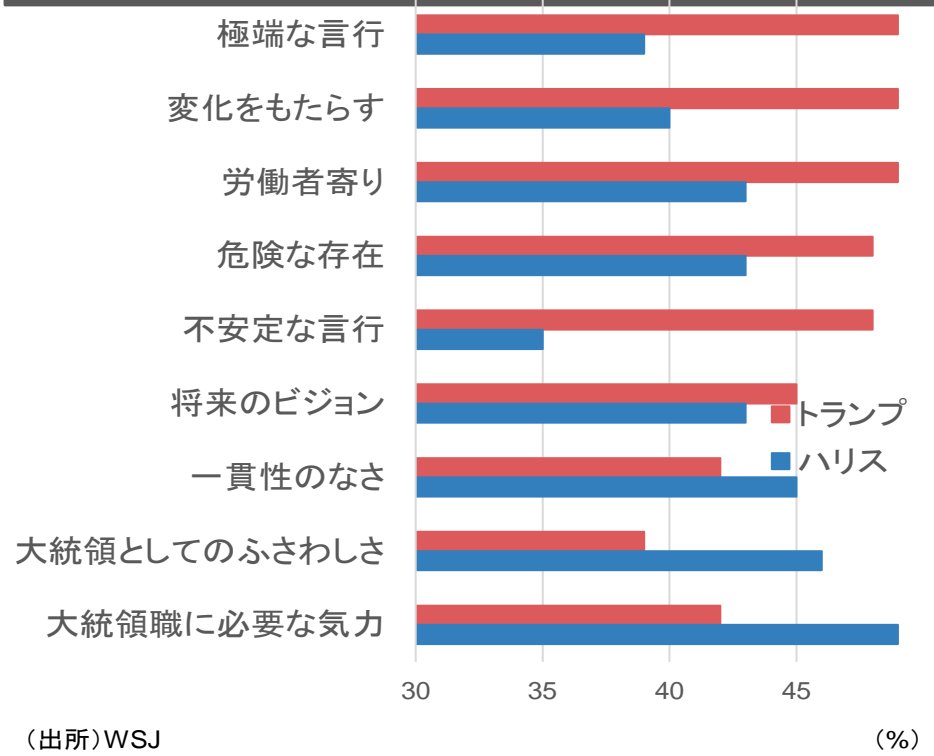
# 大統領選挙：世論調査にみる勝敗を分ける要因

- 前回、前々回の大統領選挙では、トランプ氏の得票率が、投票日直前の世論調査の支持率を上回る傾向がみられた。このため、投票日を目前に控え、トランプ、ハリス両氏の支持率は互角であるが、トランプ氏の支持率が低めにでる傾向を踏まえ、トランプ氏が実際には優勢ではないかとの見方が広がっている。
- かりにトランプ氏が当選するケースでは、有権者が争点として重視する移民、経済、インフレ対策で支持が高かったことが勝因といえる。また、トランプ氏の人格面での難点は有権者に広く認識されており、それを踏まえてもトランプ氏への期待が高かったといえる。一方、ハリス氏が苦戦予想を覆して当選するケースでは、妊娠中絶問題が有権者の投票判断に予想以上に影響を与え、女性票を幅広く獲得したことが勝因になる可能性が考えられよう。

どちらの候補を支持するか(世論調査10/24公表)



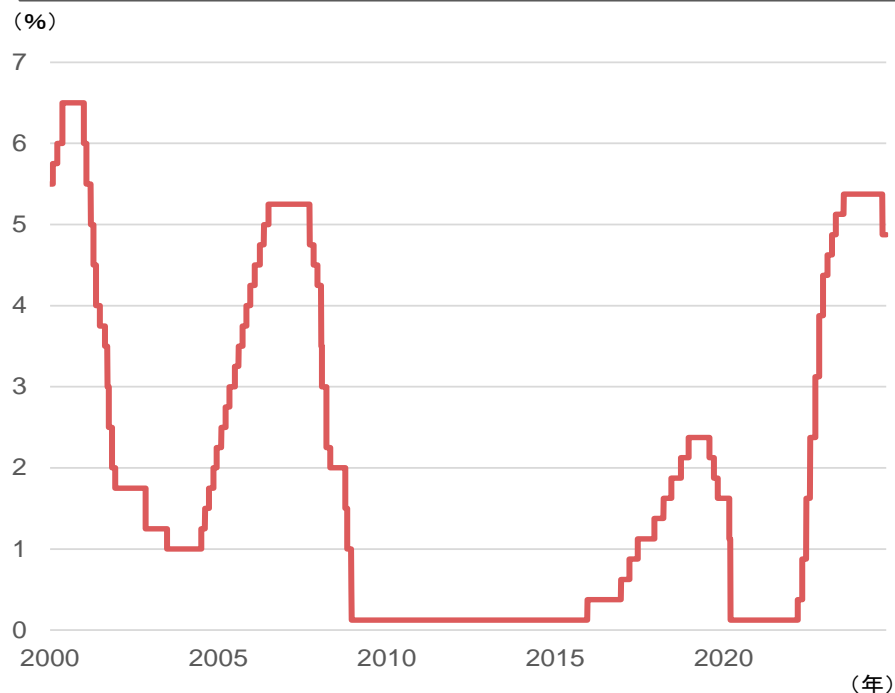
どちらの候補に感じるか(世論調査10/24公表)



# 金融政策は利下げペースが焦点

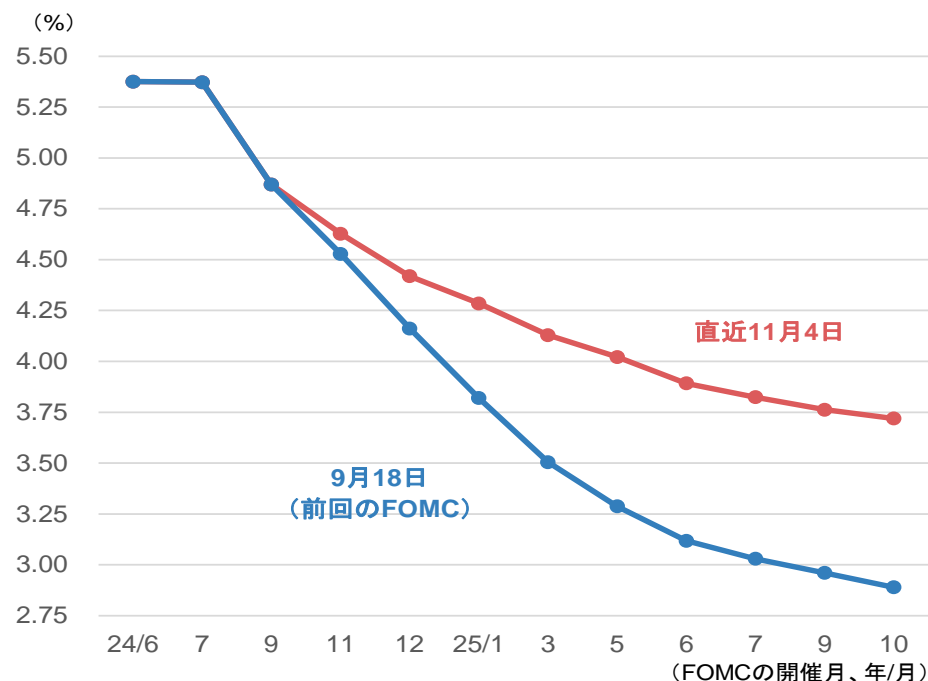
- FRBは9月17、18日に開催した連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利であるFF金利の誘導目標を0.5%引き下げ、4.75~5%とした。政策金利の引き下げは2020年3月以来4年半ぶり。パウエル議長は会見で、今後の利下げペースについて会合ごとに判断する方針をあらためて示した。
- 一方、米金利先物の動きからFOMCごとの政策金利を予想するCMEの「フェドウオッチ」によると、市場予想を上回る経済指標が相次いだことから、各FOMCの予想金利は9月FOMC会合時と比べ上昇し、その結果、今後1年間の市場の予想利下げ回数は8回から5回程度に減少した。すなわち、経済物価情勢の変化を踏まえた実際の利下げペースが、今後の金融政策の焦点となろう。

## 政策金利



(出所)FRB

## 金融市場における各FOMCの金利見通し



(注)各FOMCごとの利上げ確率をもとに計算した加重平均値  
(出所)シカゴマーカンタイル取引所

## ご利用に際して

---

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。



(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 細尾

TEL:03-6733-4925 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー